（仮称）道の駅「くまがや」市内事業者向け説明会

令和３年８月２３日（月）
①１３:３０～１４:３０
②１５:３０～１６:３０
商工会館　大ホール

１．開会

２．挨拶

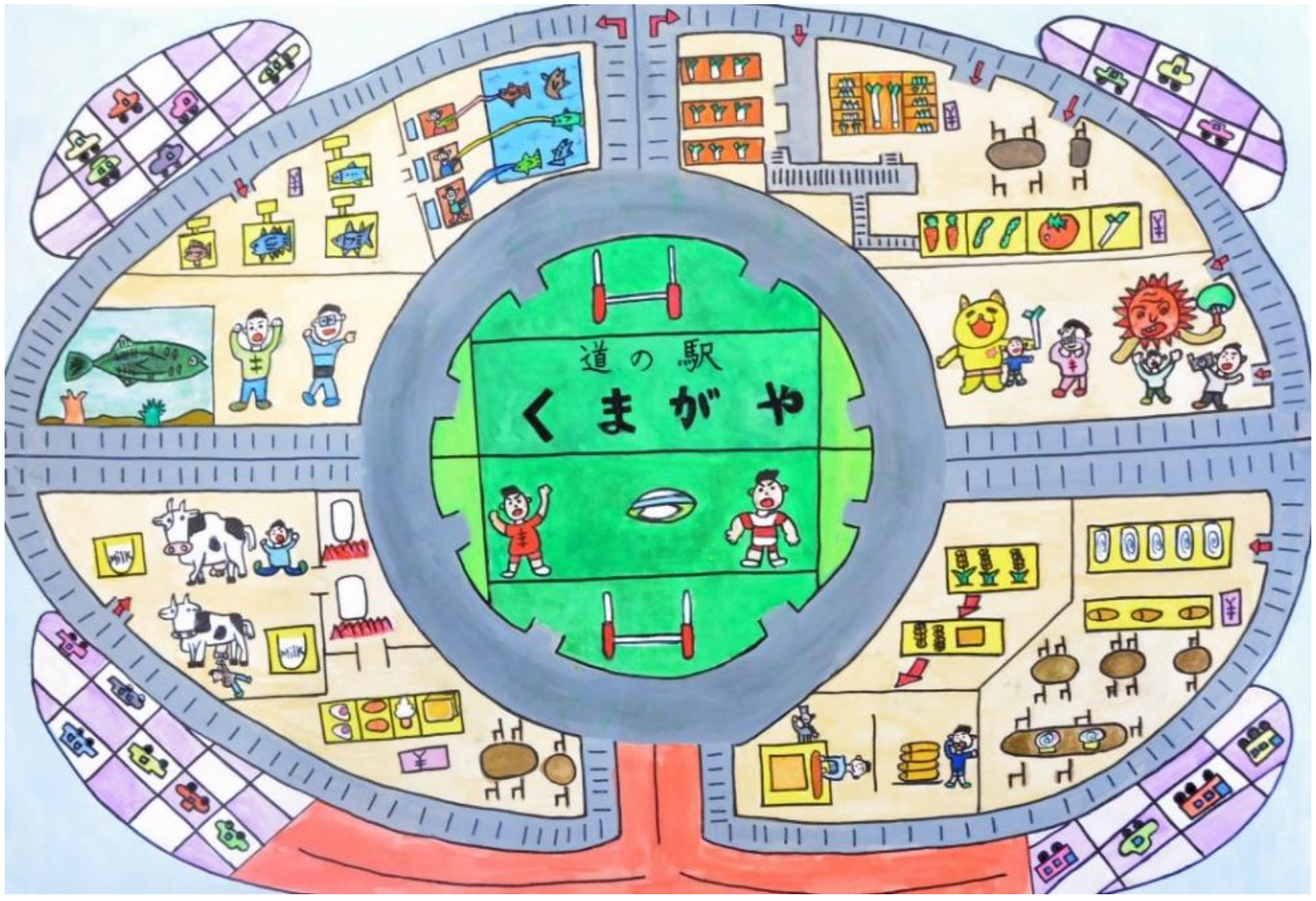
３．出席者の紹介

４．事業概要

５．地元企業とPFI事業
（外部講師）

６．質疑応答

７．閉会



熊谷西小学校生の作品（令和２年度 食×子どもプロジェクトより）

※　本日の説明会は道の駅の事業概要を説明するものです。
事業者・テナント・商品などを募集・決定するものではございません。

※※ 本日説明した内容は関係者との協議などにより変更となる場合がございますのでご了承ください。

熊谷スポーツ
文化公園

県道
弥藤吾行田線

ラグビーロード

県道熊谷羽生線

上之(南)
交差点

【池上地内】
道の駅
「くまがや」
約7ha

(都)第２北大通線

熊谷市役所

ＪＲ熊谷駅

秩父鉄道
ｿｼｵ流通ｾﾝﾀｰ駅

ＪＲ熊谷駅	約4km
ｿｼｵ流通ｾﾝﾀｰ駅	約2km
熊谷ｽﾎﾟｰﾂ文化公園	約2km
日本橋(国道17号)	約65km

地理院地図（国土地理院）をもとに熊谷市作成

県道
弥藤吾行田線

国道125号

■総面積 約7ha
■駐車場 約400台 (小型307 大型69 +α)
■総事業費 約50～60億円
■事業方式 ＰＦＩ－ＢＴＯ
■事業類型 ミックス型

機能と役割分担

■休憩機能(24h)
①道路利用者の駐車場
②トイレ 43基
(男性15 女性25 ほか3)

■情報提供機能(24h)
②道路情報提供ｺｰﾅｰ

■地域振興機能
①施設利用者の駐車場
③地域振興施設 約5,000㎡
(地上1階)
a.農産物直売所 約1,000㎡
b.飲食施設 約 800㎡
c.室内遊び場 約1,600㎡
d.農園 約1,000㎡
トイレほか
④緑地･調整池

■防災機能
防災倉庫ほか

④
d
国道17号BP
b
a
③
c
②
(国整備)
①
小型車(市整備)
大型車(市整備)
小型車(国整備)
大型車(国整備)

0 10 50 100 150m

出典：整備計画（令和２年６月）

地域の課題と道の駅に求められる役割

出典：（仮称）道の駅「くまがや」基本計画　令和元年7月熊谷市策定

地域の課題	道の駅に求められる役割
農産物のブランド化・６次産業化を含めた農業振興の推進	**農業・食文化を育てる** **本州一の収穫量を誇る小麦や良質な野菜等のブランド化を図る**ため、**地元農産物を使用した食の提供**、新鮮野菜の販売・ＰＲ、**６次産業化による加工品開発等**により、**熊谷の農業・食文化を育て、広く理解醸成を図る「農業振興拠点」**が必要です。
観光交流及び産業の活性化	**熊谷の魅力を発信する** 本市の**東側の玄関口**であり、**熊谷スポーツ文化公園に近接**する立地を活かし、**国道 17 号 BP 及び国道 125 号 BP の道路利用者や公園来訪者等**に対し、本市の魅力ある農産物や食文化、文化財、観光名所、名産品等の**地域資源の情報を効果的に発信する「情報発信拠点」**が必要です。
子育て世代をはじめとした多様なニーズへの対応	**住民や来訪者を元気にする** 本市の人口減少対策において重要となる若い世代の転入・定住促進を図るため、**子育て世代をはじめ、全ての来訪者が食の体験・交流を楽しむことができ、元気になれる「地域交流拠点」**が必要です。

コンセプト・実現に向けたビジョン

出典：（仮称）道の駅「くまがや」整備計画　令和２年６月熊谷市策定

コンセプト：日本を代表する“食”のテーマパーク

- 本州一の小麦収穫量を誇る“国産麦の聖地”として、熊谷の小麦文化を中心に“熊谷流の農業・食文化”を核とした“食”のテーマパークを形成します。
- “食”のテーマパークとして、来訪者に食を通じたおもてなしを提供するとともに、収穫・調理といった体験や食育といった学習など“熊谷流の農業・食文化”を通じた楽しみが得られる場を提供することで、日本を代表する“食”のテーマパークの形成を目指します。
- “熊谷流の農業・食文化”を**「育てる」、「発信する」**ことを通じ、住民や来訪者を**「元気にする」**地域活性化の拠点を目指します。

ブラッシュアップ
（特徴付け）

民間事業者からの意見等
（１）近隣の道の駅との差別化
（２）食と子どもの親和性
（３）子育て応援施設に対する
新「道の駅」あり方検討会からの提言

設計コンセプト： 食 × 子ども

求められる機能・施設のイメージ

出典：（仮称）道の駅「くまがや」基本計画　令和元年7月熊谷市策定(一部修正)

休憩機能

24時間無料で利用できる駐車場やトイレ等の休憩機能

【施設例】24h利用可能な魅力的なトイレ、駐車場、電気自動車用急速充電スペース、駐輪施設



出典：内閣官房
トイレ事例集



出典：道の駅
「ひたちおおた」HP

情報発信機能

24時間利用可能な道路情報提供コーナー等の情報発信機能



出典：E-NEXCO Drive Plaza HP

防災拠点機能

災害発生時の一時避難場所としての利用や応急対策・復旧活動を支援する防災拠点機能

【施設例】災害用トイレ、貯水槽、自家発電機、備蓄燃料保管タンク、防災備蓄倉庫、無料公衆無線LAN、スマートフォン充電設備、AED





出典:国土交通省「道の駅」の災害時における活用について

地域連携機能

■食の提供・理解醸成機能

来訪者をもてなすとともに、熊谷の農業・食文化のブランド化を図るための食の提供・理解醸成機能

- 新鮮な地元農産物やそれらを活用したここでしか買えない農産物加工品等の販売
- 「健康」「オーガニック」「スポーツ」等をテーマとした健康食・アスリート食等の提供
- 暑さと絡めたアイス、かき氷等のひんやりスイーツの提供

【施設例】農産物直売所、加工品販売所、飲食施設



出典：道の駅「米沢」HP



出典：仙台場外市場
杜の市場HP

■農業体験機能

来訪者が農業を体験したり、自ら収穫した農産物を味わう機会等を提供する農業体験機能

- 果実狩りや野菜収穫を行える体験農園
- 農業体験イベント等の定期的な開催

【施設例】農園（体験農園、市民農園等）



出典：道の駅「くりもと　紅小町の郷」HP

■連携支援・加工機能

6次産業化の推進等に向けた連携支援・加工機能

- 地元農産物を活用した新たな加工品開発・流通
- 加工品等のインターネット販売
- 農業参入に向けた農業者、農業系教育機関、食関連企業等の連携・交流
- 農産物加工場の見学や加工の体験ができるツアー等の企画・提供

【施設例】農産物加工・流通施設



出典：さいさいきて屋HP

育てる　農産物のブランド化・6次産業化を含め農業・食文化を育てる「農業振興拠点」

食の体験・交流を通じ住民や来訪者を元気にする「地域交流拠点」　元気にする

■交流・地域活動機能

人が集い、楽しみ、交流することができる交流・地域活動機能

- 各種イベント開催や趣味サークル料理教室等の活動の場
- 気軽に利用できる屋内外の休憩・交流スペース

【施設例】屋外・半屋外のイベント広場
屋内外の休憩・交流スペース、キッチンスタジオ



出典：道の駅
「ひたちおおた」HP

■子育て支援機能

広く子育て世代を応援するため、親子が安心して集える子育て支援機能

- 子育て世代が外出する際の目的地となるような子ども・家族の遊び場
- 乳幼児から小学生までの子どもが遊ぶことのできる食育や知育等の要素を加えた広い屋内遊び場

【施設例】屋内外遊び場、水遊び場、一時預かり所
妊婦向け屋根付き優先駐車スペース



出典：キッズピアあしかがHP

■交通機能

道の駅に公共交通機関により直接アクセスできる交通機能

- より多くの人の立寄りを促すためのバス路線

【施設例】バス停、待合スペース

出典：熊谷市HP、麻布十番モンタボーHP
ウスキングベーグルHP、東京アスリート食堂HP
阿里山カフェHP、梅月堂、買えるくまがやONLINE HP
ヤマザワHP、さいたま逸品ぐるめぐりHP、秩父市HP

発信する　本市の東の玄関口として熊谷の魅力を発信する「情報発信拠点」

■案内・誘導機能

観光名所やイベント情報をはじめとした地域資源を案内し、市内観光周遊への誘導を促進するための案内・誘導機能

- 観光名所やイベント情報、市内飲食店や小売店等を紹介するパンフレット・チラシ等の提供
- 熊谷スポーツ文化公園で開催される各種スポーツ大会・イベント情報の発信
- 地域ＦＭラジオ局との連携、観光ツアー企画・提供

【施設例】多言語対応の観光総合案内窓口
情報提供コーナー、市内飲食店等の紹介コーナー



出典：道の駅「米沢」HP

■情報発信・広報機能

知名度が十分でない地域固有の資源を含め、来訪者をはじめ全国に向けて歴史・文化・地域資源等を広く発信する情報発信・広報機能

- 熊谷の農業・小麦文化や伝統工芸・特産品の紹介
- 文化財や縁ある偉人、遺跡、ラグビータウン熊谷等の紹介
- 暑さ対策設備の設置による取組みのＰＲと来訪者への憩い・おもてなしの提供

【施設例】熊谷の農業・歴史等の紹介コーナー、
冷却ミスト装置・人工日除け等の暑さ対策設備



日本を代表する“食”のテーマパークの実現イメージ

出典：平成30年度 検討委員会・専門部会などの議論をもとに作成

テーマパーク　→【アトラクション】

ビジョン：熊谷流の農業・食文化を体験する～生産から消費まで～

要素	アトラクション	体験イメージ	規模　※整備計画より
知る	①くまがやミュージアム	■熊谷流の農業・食文化がわかるパネルの展示・映像体験 ・国産麦の聖地の根拠や権田愛三氏の功績 ・熊谷流を全国に発信するコンテンツ  	観光総合案内所　30㎡ 室内交流スペース 50㎡ (これらを活用)
つくる	②農園・周辺農地	■小麦の作付け・麦踏・収穫などの農業体験 ・農業体験イベントの実施  出典：道の駅「くりもと紅小町の郷」HP	農園 1000㎡
つくる	③キッチンスタジオ	■熊谷産食材をメインにした加工・調理体験 ・オシャレでオープンなキッチンで熊谷産の農産物の加工や調理を体験 ・体験に参加していないお客さんもその様子が見えおいしさをＰＲ ・キッズキッチンや月謝制料理教室も併用し賑わいを演出 	120㎡ 40席 (多目的室を兼ねる)
味わう	④フードコート・ レストラン・カフェ	■熊谷流のおもてなしを体験 ・熊谷名物のうどん･フライ･いなり寿司･雪くまを提供 ・地元農産物を使用した料理や食品を提供 ・熊谷市内のおいしいお店が集結   	飲食施設 800㎡ 300席
味わう	⑤農産物直売所 加工販売・流通施設	■自宅や市内飲食店で熊谷のおいしい食材を体験 ・熊谷市内の生産者が新鮮で美味しい農産物を販売 ・熊谷ブランドの食品やお土産を加工販売 ・市内外への流通やふるさと納税の返礼品へ  出典：道の駅「米沢」HP	■農産物直売所　1000㎡ ■農産物加工･流通施設 200㎡ 内訳 加工販売 3種類 50㎡ 流通施設　50㎡
食×子ども	⑥室内遊び場 緑地（芝生広場）	■食育や知育の要素を加えた室内遊び場や緑地で熊谷流を体験 ・気候に左右されずいつでも安心して遊び･学べます ・広く子育て世代を応援するためベビーコーナーや一時預かり所を整備  出典：キッズピアあしかがHP	■室内遊び場　1,600㎡ ■緑地　約2.7ha

事業方式「ＰＦＩ－ＢＴＯ」について

【事業方式】
ＰＦＩ：民間の資金と経営能力などを活用し
公共施設の建設･運営などを行う手法

ＢＴＯ：民間が施設を建設後所有権を市に譲渡
民間が運営管理する方式
（市の施設→固定資産税等がかからない）

【事業類型】サービス購入型：市が民間に対価を支払い
独立採算型　　：利用者が民間に料金を支払い
採用→ミックス型　　：サービス購入型＋独立採算型

ＰＦＩ事業を選んだ理由

【社会情勢】　　自治体の財政悪化　→　効率化・スリム化

【今後の市の方針】　公共施設の整備・運営・維持管理
ＰＦＩ事業など民間活力を積極的に　→　×公設公営
×単独発注
×単年度委託

本市初！ＰＦＩ事業　整備から運営まで長期一括発注

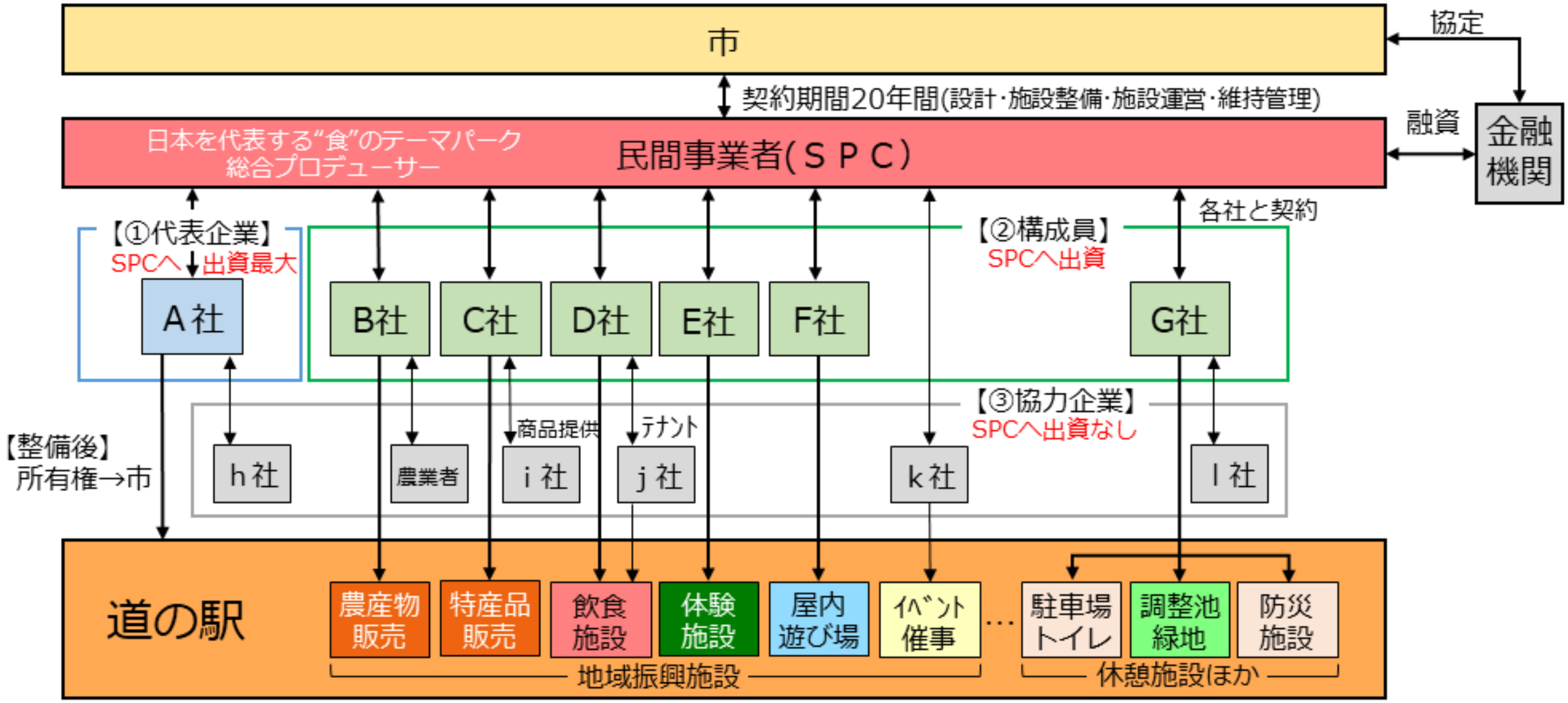
・（仮称）道の駅「くまがや」
・子育て支援・保健拠点施設（石原）

■市のメリット
①民間の資金とノウハウを活用し魅力や賑わいの創出と安定した経営が可能
②一括性能発注の長期契約と役割分担の明確化で経費とリスクの軽減
③財政負担の平準化　ほか

これからは民間が得意なことは
民間にお任せしていきます！



事業の進め方のイメージ



■なぜ市は地元企業に参入してほしいのか（特に経営決定権のあるＳＰＣで）

- 市の公共事業　→　地元で頑張る企業に受注してほしい
- 安心しておまかせできる　→　市民からの信頼がある
- 一緒に熊谷を盛上げてほしい　→　地元愛と地域ネットワークを持つ
- 今後は積極的にＰＦＩ事業　→　経験やノウハウを蓄積してほしい

事業スケジュール

年度	H29～R2 2017～2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 ～ 2024 ～
市	計画・設計	埋蔵文化財発掘調査 PFI事業者公募手続き 調整中	提案 事業契約締結）	用地取得 市道工事 造成工事	所有権 移転 供用開始 施設整備費割賦払い モニタリング
民間事業者		検討	資金調達調整 SPC調整	実施設計 協力企業調整	施設整備 施設運営 維持管理 15年間

食×子どもプロジェクト

農産物ブランド化推進事業

ＰＦＩ事業者公募手続き
次ページで詳しく！

ＰＦＩ事業者公募スケジュール

【令和3年度】
　9月下旬　事業者公募（案）公表
~~10月13日　ＰＦＩ事業予定者向け説明会~~
~~　　場:商工会館~~
~~10月下旬~~
~~　　事業者へ~~
~~サウンディング~~

調整中



富士見中学校生の作品（令和２年度 食×子どもプロジェクトより）



熊谷南小学校生の作品（令和２年度 食×子どもプロジェクトより）

【令和4年度】
~~　4月～8月 事業者公募~~
~~　10月　　ション実施~~
~~　12月　　表~~
~~　3月下旬　市と事業者で契約締結~~

調整中